

平成 30 年 8 月 1 日

倉敷市真備地区廃棄物収集運搬の災害支援 3 日目。

今日は、昨日の倉敷市担当者との打ち合わせにより、予定どおり午前中は自衛隊との共同作業で箭田（やた）小学校に集合し、9 時より 2 台のごみ収集車で全壊した家屋の災害廃棄物の収集運搬を行いました。

初日に収集した川辺地区の家屋の外に排出された廃棄物の収集とは違い、全壊家屋からの災害廃棄物の収集運搬で、生ごみを含む物が多く、土砂の中からごみを回収する作業となり、これまでにない土埃と生ごみが腐敗した異臭の中での作業となりました。土や木材は一定の日照りで乾いたものになりましたが、プラスチックやビニールなどに残った水は乾くことなく腐った状態で異臭の原因となっています。

昨日からの自衛隊の皆さんとの共同作業と、自衛隊の皆さんの統率のとれた動きとの連携で、バケツリレー方式で災害廃棄物をごみ収集車に運び込むことができましたので、大変効率よく午前中の担当地の災害廃棄物を全回収することができました。

自衛隊の皆さんは午前中で、一度撤収されるという事で、長期にわたる作業の中、最後の力を惜しみなく発揮されましたので、我々もその力に負けないように精一杯頑張りました。

午前の作業の後、自衛隊の皆さんとの別れを惜しみつつ、午後からも倉敷市の担当職員の方の依頼に基づき、箭田（やた）地区の住宅街の災害廃棄物の収集を行いました。大きな重機が入れない住宅地の中では、小回りの利く車輛で沢山の廃棄物を運搬できるごみ収集車が大変効率よく収集できるため、交野市環境事業所のごみ収集車 2 台で受け持つことになりました。

回収した災害廃棄物を真備中学校グラウンドに搬入する予定でしたが、被災された市民の皆様を持ち込みと重なり 20 台以上が搬入待ちの状態であったので、40 度を超える気温の中、作業される市民の皆様の搬入を優先していただき、我々は、山の上にある増原公園（大型車輛による仮置き場）への搬入を繰り返し行いました。

天候には恵まれていますが、大変日照りがきつく 40 度を超える気温の中での作業となります。しかし、被災された住民の皆様の災害廃棄物の片づけ作業はまだまだ続いています。

被災地では、まだまだ災害廃棄物を片づける人手が足りない状態で、災害廃棄物の異臭も日増しに強くなっています。他自治体の廃棄物収集部隊の応援も真備に向かっていると聞いています。大変貴重な経験をさせていただきながら、被災地の皆様にとって少しでもお役に立てるよう力の限り頑張ります。

交野市環境部環境事業課

倉敷市真備地区災害廃棄物収集運搬支援派遣隊 小嶋 輝昭